

イシガレイ稚魚でみられた成長停滞について (短報)

伊藤貴之

Growth Stagnation of Stone Flounder Juvenile (Short Paper)

Takayuki Iro

イシガレイの漁獲加入動向は漁業調査指導船拓水（以下、拓水）のソリネット調査により求めた 0 歳魚の分布密度から推定することができる。しかし、2008 年級は中水準の漁獲加入と推定されたものの顕著な漁獲加入はみられなかったことから（図 1,2）、推定精度の向上が求められている。今回、2008 年級の 0 歳魚において成長が停滞する事例がみられ、その後の漁獲加入に影響した可能性が考えられたため報告する。

2003 年から 2010 年にいわき市新舞子沖で実施した拓水によるソリネット調査およびトロール調査で採捕されたイシガレイ 0 歳魚の採捕日別平均体長の推移を年別に比較した。

卓越年級群であった 2003～2005 年級は、7 月までには平均体長 40mm を超え、8 月には 60mm～70mm 程度まで成長していた。一方で 2008 年級は 6 月末でも平均体長が 30mm を超えず、8 月末でも 60mm 程度と 2003～2005 年級と比較して小型であり、7 月にかけて成長が停滞した。ソリネット調査、トロール調査のいずれにおいても同様の結果となった。（図 3,4）

高越ら（1974）は飼育環境下での体長 30mm 未満のイシガレイ 0 歳魚の生残率は低く、30mm を超えると成長速度が上がることを明らかにしている。すなわち、2008 年級は稚魚の発生はある程度みられたものの、体長 30mm に達するまでに成長停滞が起り、生残率が低下し、漁獲加入に結び付かなかった可能性が考えられた。今後は稚魚の分布密度だけでなく、成長速度を加えて考えることで漁獲加入水準推定の精度向上が期待できる。

2010 年級は稚魚の分布密度から 2008 年級と同程度の新規加入水準と推定された（図 1）。ソリネット調査では 5 月までしか採捕されなかったが（図 3）、トロール調査では 7 月まで採捕され、体長 30mm 未満での成長停滞が観察されなかったことから（図 4）、中水準で漁獲加入することが期待される。

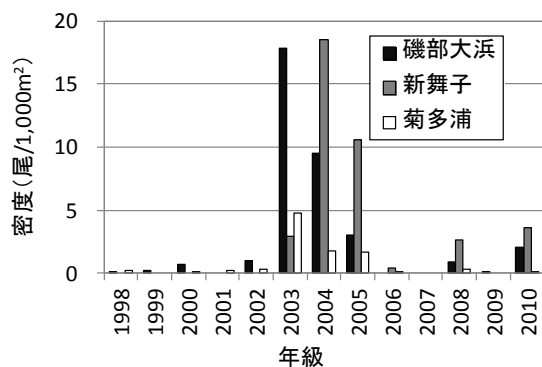


図 1 イシガレイ 0 歳魚の分布密度(ソリネット)
 (2～7 月の平均密度、新舞子は 2003 年調査開始)

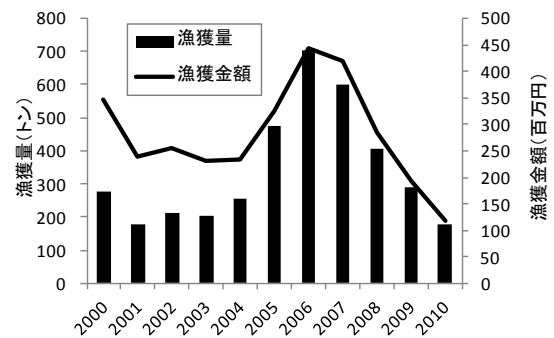


図 2 イシガレイの漁獲量・金額の推移

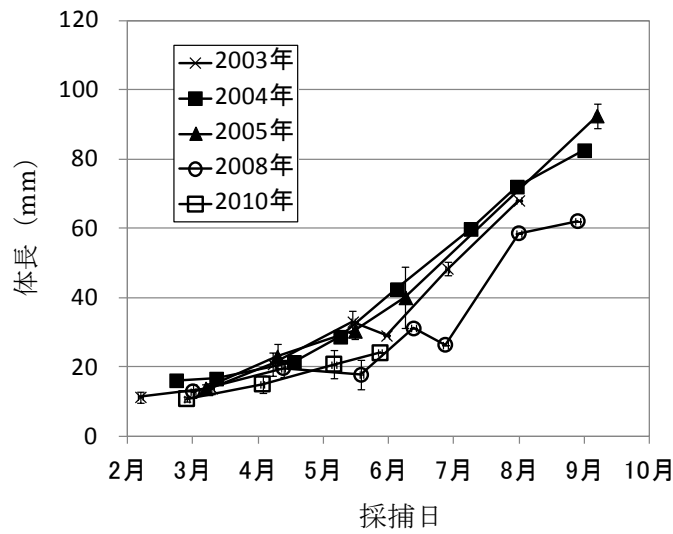


図3 イシガレイ体長推移 (ソリネット調査)

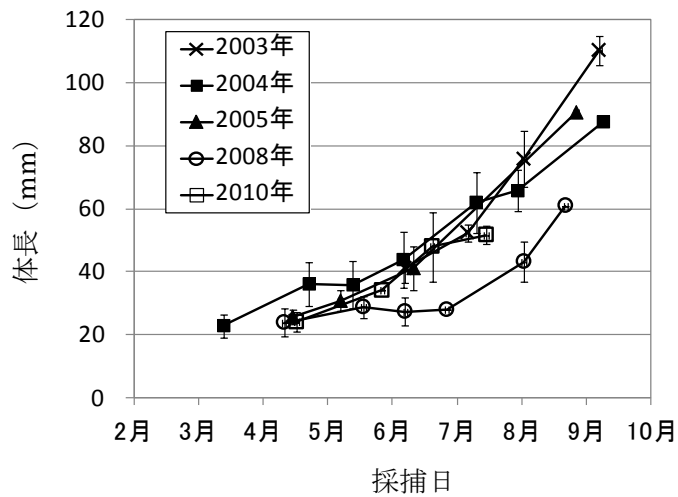


図4 イシガレイ体長推移 (トロール調査)

参考文献

- 1) 高越哲男・秋元義正・天神憭：飼育イシガレイ稚魚の成長と歩留りについて、福島水試研報、3、31-38 (1974).